



創刊号

◆ 国際学会“Chirality”が7年ぶりに日本で開催!

Chirality 2017 ; ISCD-29

Date: July 9-12, 2017

Venue: Waseda University
International Conference Center
Tokyo, Japan



“Chirality 2017” : ISCD-29(第29回不斉に関する国際会議)が開催されます(2017年7月9~12日 於早稲田大学国際会議センター、Chairman : 高田十志和・東京工業大学教授、Co-Chairman : 朝日透・早稲田大学教授)。

この国際会議は、分子、物質の「キラリティー」に関わる諸問題-不斉合成、生物触媒、クロマト分離、超分子キラリティー、キラルポリマー、生物、医療、薬物動態、物理学、結晶学、分光学におけるキラリティーなど、キラル化学を極めて広範に取り扱っており、本分野の最先端研究を包括的に知りたい方には是非お奨めの国際学会です。

また本学会はアカデミアのみならず、欧米を中心に大手製薬企業の高名な研究者(例えば今回はC. Welch博士(元Merck社)、S. Andersson博士(AstraZeneca社)、E. Francotte博士(元Novartis社)ら)が参加するため、企業研究者にとっても大いに魅力のある学会です。

特に今回は2016年ノーベル化学賞受賞者のStrasbourg大学 Sauvage教授の基調講演に注目が集まっています。

当社からは欧州子会社のP. Franco博士の招待講演ほか、ポスター発表、ランチョンセミナー及びブースの出展を予定しています。

この夏、キラル三昧の本学会会場で皆様にお目にかかることを楽しみにしています。(大西(あ))

◆ ついに開催! SFC国際学会 in Japan!!

超臨界流体クロマトグラフィー(SFC)は、高速分析・分取可能で地球環境にやさしい次世代のクロマトグラフィーです。

これまで、高圧ガス保安法によりSFC導入には「勇気」が必要でしたが、昨年11月の法改正により、内容積100mL以下の超臨界抽出/クロマト装置は適応除外となりました。これにより、今後SFCが爆発的に普及するでしょう。

ところで、関係者の悲願であった法改正が達成されたことから、当社は今年を「SFC元年」と称していますが、実は…このタイミングで、SFCの国際学会が日本で初めて開催されるんです!!

運命を感じるのは私だけでしょうか?

(2017年7月12~14日 於千里ライフサイエンスセンター、主催 : Green Chemistry Group, 共催 : SFC研究会(代表 馬場健史・九州大学教授))

この会議は、SFCに関する理論的な発表だけでなく、キラル化合物やアキラル化合物の分析・分取といったアプリケーションの紹介まで、SFCの最先端研究が網羅されています。

初日は、SFC初心者向けのセミナーであるshort courseも開催され、SFC導入を検討中のお客様もご満足いただける内容となること間違いなし。6月23日までに事前申し込みすると、参加費はなんと3万円とのこと! 国際学会としては破格の値段ですね。

当社からは口頭発表・ポスター発表及びブースの出展を予定しています。

学会の詳細は、SFC研究会ホームページ(<http://www.sfc-forum.org/>)をご覧ください。(永井)

超臨界流体クロマトグラフィ

DAICEL

SFC元年

高分子担持型 SFC用カラム

◆ キラルカラムパイオニア presents “アキラルSFCカラム”

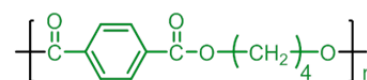


当社では、「キラル」化合物分離用カラムだけではなく、「アキラル」化合物分離用SFCカラム、DAICEL DCpak SFC-A、SFC-Bを開発しています。先に販売している5 μ m品に加え、この4月には、分析用に適した3 μ m品も販売を開始しました。

低分子セクターを用いた既存アキラルSFCカラムと異なり、高分子セクターを用いているのが最大の特徴です。高分子だからその高い保持能力、耐久性は一見の価値あり！（見るものではないですが(笑)）極性化合物や分子形状類似化合物の分離に威力を發揮します。

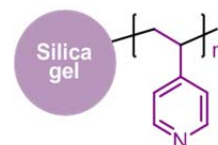
7月開催のSFC Asia 2017では、医薬品や環境汚染物質などの様々なアプリケーションデータに加え、既存品との耐久性の比較についても紹介します。

SFC-A、SFC-Bについては、様々なサイズのレンタルカラムを用意しておりますので、この機会にぜひDCpak SFCシリーズをお試しください！（永井）



Silica gel

DAICEL DCpak® SFC-A



DAICEL DCpak® SFC-B

◆ “CHIRALPAK IB N”をIBの改良版として販売開始！



耐溶剤型キラルカラム(iCHIRALシリーズ)IBと同じキラルセクター(セルローストリス(3,5-ジメチルフェニルカルバメート))をもつ“IB N”は、IBと分離対象化合物種は変わらず、分離度(Rs)において大幅な改善を達成しました。この改良によってIBでは部分分離に留まっていた分離がベースライン分離までの向上、またキラルクロマト分取での大幅な生産性向上が期待できます。

写真は日本薬学会第137年会併催展示会の新技術・新製品セミナー(2017年3月25日)で“IB N”をご紹介した際の様子です。多くの方に興味を持っていただけたと確信しています！

是非この機会に“CHIRALPAK IB N”をお試しください。特にIBをお使いの方にはお手にとって頂きたい、お奨めの一品です。(吉田)

◆ Sub-2 μ m多糖系キラルカラム、堂々の新発売！

お待ちかねのSub-2 μ mキラルカラム、ついに発売しました。

第一弾製品群は、CHIRALPAK IA-U、IB-U及びIC-U(“Uシリーズ”)の3品種です。幅広い種類のキラル化合物に対して高い認識能力をもつ多糖誘導体キラルセクターをシリカゲル(粒子径1.6 μ m)に固定化した耐溶剤型キラルカラムです。高流速域でも高理論段数を保持するこのSub-2 μ mカラムは、従来のキラルカラムの常識を超えるパフォーマンスを發揮します。さらなる進化を遂げた“Uシリーズ”カラムを是非一度お試しください。

「キラルカラム界のサブちゃん」とこと、“Uシリーズ”は今後もラインナップを拡充し、皆様に可愛がって頂けるよう、頑張る所存です。(福田)



【編集後記】最後まで読んでいただきありがとうございます。編集委員長の宮澤です。キラルニュース創刊号、いかがだったでしょうか？今回の執筆陣は弊社カラムの開発プロ集団ですが、コラムを書かせても良いかんじ？今後もお役立ち情報をどんどん発信していきたいと思っております。皆様のご意見・ご感想お待ちしております！（宮澤）

発行元：株式会社ダイセル CPI カンパニー

〔東京〕 〒108-8230 東京都港区港南 2-18-1 JR 品川イーストビル

TEL : 03-6711-8222 FAX : 03-6711-8228

〔大阪〕 〒530-0011 大阪市北区大深町 3-1 グランフロント大阪タワーB

TEL : 06-7639-7221 FAX : 06-7639-7228

ヘルプデスク フリーダイヤル : 0120-780-104 HP : <https://www.daicelchiral.com/>

このメールマガジンは弊社と名刺交換させていただいた方、ユーザー登録・資料請求等のお問い合わせをいただいたお客様を対象に配信しております。CHIRALCEL, CHIRALPAK, CROWNPAC, DAICEL DCpak は、日本における株式会社ダイセルの商標です。